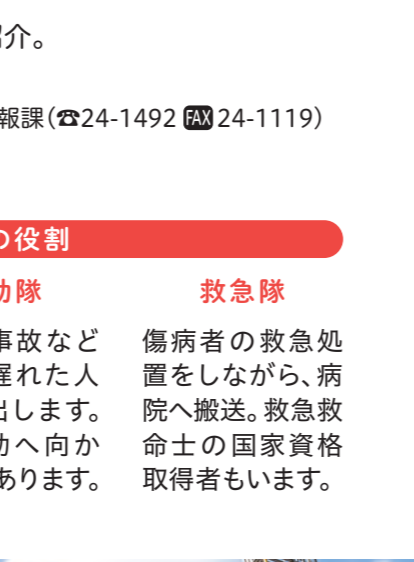
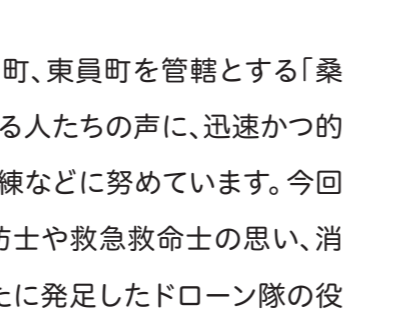
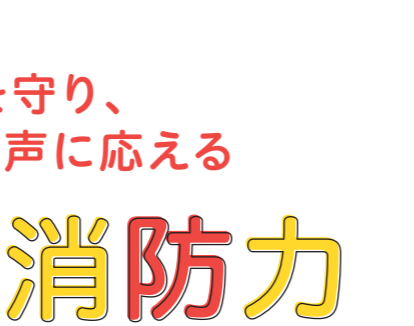




特集



まちを守り、
助けを呼ぶ声に応える

桑名の消防力

桑名市、いなべ市、木曽岬町、東員町を管轄とする「桑名市消防本部」。助けを求める人たちの声に、迅速かつ的確に対応できるよう、日々訓練などに努めています。今回は、災害現場で活躍する消防士や救急救命士の思い、消防本部高台移転の狙い、新たに発足したドローン隊の役割など、桑名の消防力をご紹介します。

問 この記事については秘書広報課(☎24-1492 FAX 24-1119)

各隊の役割

消防隊

主に火災現場で消火活動を行います。火災原因や損害の調査も行います。

救助隊

火事や事故などで逃げ遅れた人を助け出します。水難救助へ向かうこともあります。

救急隊

傷病者の救急処置をしながら、病院へ搬送。救急救命士の国家資格取得者もいます。

広報くわな KUWANA

目次 contents

- 02 キラリ★くわな人
- 03 **特集** まちを守り、助けを呼ぶ声に応える
桑名の消防力
- 08 わくわくする未来 一緒に創りませんか?
- 09 知っていますか?学校のことVol.3
- 10 子育て広場
図書館・六華苑・博物館
- 12 メディカルニュース
くわな防災教室
- 13 かんたん旨レシピ
みんなの掲示板
- 14 EVENT ALBUM(イベントアルバム)

- 16 くわなINFO
- 26 無料相談
- 27 子育てしやすい街へ 人口減少対策パッケージ
市長まちなか探索
- 28 HAPPY BIRTHDAY
桑名のイトコ教えてください。

今月の表紙

訓練の様子を撮影しました。はしごクレーン救助という救助方法で、低所にいる要救助者を救出する際に有効な方法です。実際の現場であるかのような気迫でした。



キラリ★くわな人



株式会社アイシン
ものづくり人事部 技能五輪課
りゅう
瀬木 竜さん

昨年10月4日から7日にかけて、ドイツで開催された「第46回技能五輪国際大会」メカトロニクス職種として出場された瀬木さん。25カ国の精鋭たちが集まる中、見事金メダルを獲得されました。

をしたりするチームのブレイン。常に冷静沈着、的確にチームを引っ張ります。そんな瀬木さんも大会前はプレッシャーで眠れない日々が続いたそうです。1日約10時間、過去に出題された課題や、最新機器をリサーチしてトレーニング。金メダルを獲得した感想を聞くと、「安心した気持ちが大きかった。応援してくれた会社、家族に良い報告ができてほっとしました」と話してくれました。



瀬木さんの雄姿に、若い人たちは夢や希望をもらったことでしょう。桑名出身の若き技能者が世界で活躍しているのは、とても嬉しいですね。



現場到着後に考えるのではなく
前もってありとあらゆる状況を想定しています

救急救命士 伊藤 政綱さん

勤続8年。「救急救命士になりたい」との思いで消防士に。署内の選考や半年間の研修を経て、昨年に救急救命士の資格を取得。自主学習など、日々の研さんを忘れません。



毒ガスやウイルスなどから身を守る、化学防護服での訓練。



頭部を固定し、傷病者を担架に乗せる作業はチームワークが大切。

急病や事故などの救急出動要請に応え、現場から医療機関までの搬送・応急手当を行っている伊藤さん。現場に到着するまでの間に、限られた通報内容から現場を想定し、適切に行動できるように心がけています。「現場から救急車までの搬送が困難ではないか、通報内容から考えられる重症な疾患は何かなど、常に悪い状況を想定しています」とのこと。心肺停止状態だった人が回復したと知った時は、本当にうれしかったそうです。以前、指切断の労災事故へ出動した

際、現場から直近の医療機関への搬送よりも、少し遠方で切断指を形成できる可能性のある専門病院を選択したことがあったそうです。「救急救命士として難しい判断をする場合もありますが、傷病者にとって何がベストなのか、どうしたら少しでも苦痛を和らげることができるとか。一分一秒でも早く医師に引き継ぐためにできる処置は何かを常に考え、最善を尽くしています」と話してくれました。より多くの知識、技術を身に付けるため、日々訓練などに励んでいます。

スピードと、処置の適切さ 両方が求められる救急隊

市民の皆さんが頼れる消防士をめざして全力を尽くします！



消防士長 花井 春奈さん

勤続14年。消防士になったきっかけは、アルバイト先でお客様が倒れた時、瞬く間に救急隊が適切な処置を施して病院へ搬送したのを目の当たりにし、感動したこと。



出動要請が入れば、一瞬で着替えて1~2分以内に出勤します。



誰がどんな役割でもできるよう、同じ訓練を何度も繰り返します。

どんな状況でも動じず 無駄のない動きで行動

数少ない女性隊員として活動する花井さん。桑名市の消防隊員は消防、救助、救急を日替わりで兼任するため、一通りこなせるよう準備しています。時には機関員として大きな特殊車両を運転することも。スピード感とチームワークがものをいう消防活動では、みんなが自発的にどんな役割でも果たせるよう、ありとあらゆる状況を想定した訓練や、ホース延長、放水、人命救助などの訓練を日々積み重ねています。

「今できることを自分で見つけて、人の役に立ちたい」と花井さんは話します。男性消防士との体力差に悩んだこともあったそうですが、「隊員の様子を気にかけてたり、救急搬送される人に優しく声をかけたり。女性隊員として何ができるんだらうと常に意識しています」と話してくれました。現在、男の子と女の子のママですが、娘さんは「将来、消防の仕事をいろんな人に知ってもらいたいと、日々奮闘しています。」

その119番、
本当に必要ですか？

救急車の適正利用にご協力を！

令和4年の桑名市消防本部管内の救急出動は1万件を超え、過去最多となりました。消防本部では日々、救急隊員のスキルアップのため訓練などに励んでいます。この技術と限りある救急車で1人でも多くの命を救いたいと考えていますので、救急車の適正利用にご理解・ご協力をお願いします。ただし下記のような症状がある場合は、迷わず119番通報してください。今号の取材中も、桑名市消防署の救急車2台全てが出動する事態がたびたび見られました。どんな時に救急車を呼ぶべきか、ぜひ知っておいてください。



こんな場合は迷わず119番を！

- 倒れて意識がない
- 胸が締め付けられるように痛む
- 急にうまく話せなくなった
- 突然の激しい頭痛



そろそろ交換時期では？

住宅用火災警報器を点検しましょう

住宅用火災警報器が設置されていても、正常に作動しなかったケースが増えています。定期的に本体のボタンを押すか、ひもを引いて音が鳴るか確認しましょう。音が鳴らない場合や設置から10年以上経過している場合は、交換をおすすめします。消防本部では、火災予防のアドバイスや出張講習、高齢者世帯などを対象にした取り付けの支援を無料で行っています。お気軽にお問い合わせください。

正常



故障または
電池切れ



●点検方法

「点検ボタン」を押すか「点検ひも」をひっぱり、音を聞きましょう。

●正常な場合

正常をお知らせするメッセージ、または火災警報音が鳴ります。

●故障または電池切れ

音が鳴らない場合は、電池が正しくセットされているか確認してください。それでも鳴らない場合は、機器本体の故障または電池切れです。設置から10年経過している場合は、機器本体の交換がおすすめです。



※イメージであり、変更する場合があります

現在、消防本部の高台移転を含めた消防庁舎の再編を進めています。令和6年度に完成、令和7年から供用開始を予定しており、現在の大山田地区市民センター周辺エリアに整備します。

災害拠点施設となる消防本部を 浸水区域外の高台へ移転

消防力UP3 南海トラフ地震に備えて 消防本部が高台移転します

江場にある現在の消防本部は、県が公表した南海トラフ巨大地震における桑名市の津波被害想定で、2mから5mくらいの津波浸水地域に指定されています。そのため、本部機能を高台に移転する必要があります。また、大山田分署が老朽化していることもあり、同時に移転を計画しています。

再編にあたっては、複合化による効率的な施設であることや、市民に開かれた施設であることなどを整備方針として、消防団詰所や大山田地区市民センター、大山田まちづくり拠点施設、郵便局が入った複合施設となる予定です。また、建物に隣接する防災広場には防災ベンチなどが置かれ、災害時に備えつつ、平時は市民の憩いの場となります。 ※消防本部1階にある消防署は移転せず、引き続き、現在の場所で消防・救急活動を行います。

市民の皆さんの「生命・身体・財産」を守るという職責を果たすため、全消防職員が同じ方向を向いて一丸となり、プロとしての業務が遂行できるよう、「オール桑名消防」をモットーに日々取り組んでいます。今後も更なる消防体制の充実に尽力してまいりますので、消防行政に対し、市民の皆さんのご理解・ご協力をよろしくお願い致します。



消防長
しんじ 杉山 伸司さん



主に大規模な自然災害時の状況把握に活躍する「ドローン隊」。俯瞰的なドローンの映像は、災害対応を検討したり、要救助者の位置を把握したりといった時に有効で、令和3年に発生した熱海市土石流災害でも活躍しました。また、赤外線カメラの搭載により、表面からは見えない「残火」の確認も素早く行えます。市では今年3月にハイスペックドローンが国から貸与され、6月から運用開始を予定しています。延焼方向の把握や水難救助など、車が立ち入れない場所での状況確認などに使用することを想定しています。現在、ドローン隊の隊員は6人。ドローンの操縦者1人と、周囲の安全確認を行う人が1人の、2人以上での活動が基本です。ドローンの操縦訓練はもちろん、水難救助での部隊連携訓練や、がれきの中に倒れた人形を発見する捜索訓練などを行っています。



ドローン飛行訓練の様子。ドローンの映像は、消防本部や消防庁とリアルタイムで共有できる仕組みとなっており、より迅速で的確な活動がしやすくなっています。

消防力UP1 大規模災害時に活躍する ドローン隊とは？



撮影した映像が、消防指令センターへ送られます。

消防力UP2 スマホを活用！ 119番映像通報システムを 知っていますか？

救命率の向上と被害の軽減につながる「119番映像通報システム」が令和3年から運用されています。これは通報者がスマートフォンで撮影した映像を消防指令センターへ送信することで、病気や事故、火災などの現場状況をより詳しく把握することができ

る仕組みです。場合によっては通報者への確かな応急処置の指導が行われることも。出場部隊の効果的な現場活動につながることもできます。通信員が必要と判断した場合には、ご協力をお願いいたします。事前登録やアプリのダウンロードは不要です。

操作手順(以下は一例)

- 1 指令員から映像通報の協力依頼(通報者側に通信料がかかります)
- 2 了承するとショートメールでURLが送られてきます
- 3 URLをタップしてウェブサイトへアクセスします
- 4 アクセスが許可されると映像通報が開始されます
- 5 画面に指令員が表示され、カメラ映像が小さく表示されます
- 6 指令員は音声通話をしながら現場の状況を確認します